

博物館だより

No.174



令和3年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

WEB博物館「みやこ町文化遺産」 新規メニュー追加

さらに充実のページへ！

博物館の公式HP「みやこ町デジタルミュージアム」のサイドメニュー「みやこ町文化遺産」は、「ガラスケースから取り出した資料展示の実現」をコンセプトに、注目の資料を高精細画像や3D画像に収めてWEB上で公開し、ふるさとの宝を身近に感じてもらえるツールを目指しています。

令和2年度もみやこ町文化遺産活用実行委員会監修のもと各資料所蔵者のご理解を得て、注目の資料の公開が実現しました。

「聞いたことはあるけど、まさか手にとることなんてできないでしょ…」といった資料が、ご利用

のパソコン画面上で気軽にご覧いただけます。この記事を読んだらぜひ一度お試しください！

◆主な公開資料「新規分のみ」

- ・葉山嘉樹自筆原稿「中学校事件」
- ・育徳館高校文芸部員作成の翻刻文で葉山嘉樹の新しい小説が楽しめる！
- ・此見大塚古墳発掘調査成果写真
- ・京築唯一の装飾壁画古墳である同古墳の調査当時の姿が見られます
- ・「みやこ町お宝マップ」



▲スタート画面(右)の矢印部分をクリックすると画像へジャンプ

◆講座教室・催し物ガイド

民俗芸能・行事の公開中止情報

新型コロナウイルスの感染拡大防止対応のため、例年町内各所で行われる左記の民俗芸能・行事の中止が決定しています。

一年連続で残念ですが、地域や観客の皆さんの安全を確保するための措置であり、皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

- 豊前神楽(鉦畑・上伊良原・上高屋・光雷・横瀬)
- 豊国楽(下伊良原)
- 「生立八幡神社山笠」行事(犀川)

※紹介は5月期の指定文化財行事のみ

5月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
5月1日(土) 9時30分
- 【古文書講座】
5月8日(土) 10時
- 【古典かな講座】
5月15日(土) 9時30分
- 【みやこ学講座】
5月22日(土) 10時

※新型コロナウイルス拡散防止対応に伴い日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途案内します。



博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は豊富な郷土資料と学芸員のサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？
詳しくは博物館まで気軽にお問い合わせください。

①博物館友の会

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに見学会や各種学習イベントを行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。お気軽にお申込みを！

♪入会の方法

博物館窓口で受付けています。

窓口で会費を納入下さい。

- ♪年間会費 3000円
- 個人会員 3000円
- 家族会員 1名2000円

②博物館歴史講座

館蔵資料や町内外の自然・文化遺産を題材に町の歴史と文化を学びます。4種の教室が開設され、それぞれの講師が皆さんを地域再発見の旅に誘います。

毎回資料代200円が必要となる場合はフリー参加です。

③文化遺産ボランティア養成講座

(愛称：豊の国みやこ探検隊！)
町の「宝」である文化遺産を自分たちでガイド＆ガードするスタッフを養成する講座です。

特にガードは町内文化遺産の除草や清掃など軽微なメンテナンス活動にフリー参加で汗を流します。参加費等は不要です。

3月の業務日誌から

3月2日(火)、博物館の「いろどりミニ展示」の第2期展示が勢揃いしました。特に向井澄男ミニ写真展は「華やく」の名で故郷が華やいた姿を活写した写真が展示され、ホール内に小さな春を呼びこんでいました。

3月27日(土)、博物館発注の僧形八幡神坐像(生立八幡宮所蔵)の複製品検取作業が行われました。本物と見まがうばかりの「立派な(?)複製品」は、今後本物を休憩させるための代役・影武者として活躍します。



▲左が複製品で右が本物 区別がつかないくらい精巧です
4月からはしばらく複製が本物の代役をつとめます



▲春の情景に加え祭やイベント等「華やく」写真を展示
5月いっぱい展示される予定です



ウィリアム・ガウランド
(1842~1922)

みやこの歴史発見伝 137
140年前に
外国人が調査した
みやこの町の古墳⑤
— イギリス大英博物館収蔵資料から —

博物館総長「森鷗外」

「令和」の改元から2年が経ちますが、コロナ禍により、改元時の賑わいが遠い昔のように思えます。当時は、元号「昭和」、平成即位天皇陛下（現在の上皇陛下）の名前・称号の考案者、吉田増蔵（勝山上田出身）の業績を見直し、発信する機会となりました。吉田増蔵が所属した宮内省の部局が「図書寮」で、その長官「図書頭」が、彼の恩師である森鷗外でした。森鷗外は、小倉に赴任中、演習で仲哀隧道（みやこ町勝山松田）を通った際、句を詠んでいます。彼は軍医、小説家など様々な職歴がみられますが、明治5年（1872）に創設された国内初の博物館「帝室博物館」（現在の東京国立博物館の前身）の総長を務めたことはあまり知られていません。明治21年（1888）に同館はこの宮内省図書寮付属の博物館となっています。鑄造技師として明治政府に招聘され、以後16年に及ぶ日本滞在中に国内各地の古墳を調査したウィリアム・ガウランドは、この年、発足間もないこの博物館で国内最後の調査を行い、帰国しています。今回は、彼の調査手法が、その後、日本における発掘調査の礎になり、現在もお継承されるなど、日本考古学の発展に大きな影響を与えたことをご紹介いたします。

イギリス人が考案した調査方法

現在、国内では、開発など様々な要因による発掘調査が各地で行われ、その数も年間8500件以上にのぼります。みやこ町近隣でも東九州自動車道建設に伴う発掘調査はまだ記憶に新しいものですが、現在、国内の発掘調査で用いられている遺構の掘り下げから図面作成・写真撮影など一連の「記録保存」の方法は、ウィリアム・ガウランドによって考案されたものです。ガウランドは古墳の計測調査は行っていますが、意外にも発掘調査は明治20年（1887）に行った大阪府の芝山古墳の発掘

博物館」（現在の東京国立博物館の前身）の総長を務めたことはあまり知られていません。明治21年（1888）に同館はこの宮内省図書寮付属の博物館となつています。鑄造技師として明治政府に招聘され、以後16年に及ぶ日本滞在中に国内各地の古墳を調査したウィリアム・ガウランドは、この年、発足間もないこの博物館で国内最後の調査を行い、帰国しています。今回は、彼の調査手法が、その後、日本における発掘調査の礎になり、現在もお継承されるなど、日本考古学の発展に大きな影響を与えたことをご紹介いたします。



「区画取り上げ法」による調査事例（犀川花熊 三ツ塚古墳群石棺内部調査の様子）

墳の墳丘や石室及び遺物の記録として自ら考案した実測図や写真撮影を導入しており、これらは斬新な手法として当時の日本の研究者に大きな影響を与えました。特に古墳の石室や墳丘を被写体とした記録写真は、国内でも最古級に位置付けられています。明治20年（1887）頃には調査に写真撮影が導入されたとみられ、この時に撮影された記録写真は今日の古墳研究には欠かせない第一級の資料として注目されています。

調査記録からみえてきたこと

明治30年（1897）にイギリスで発表された「The Dolmens and Burial Mounds in Japan」（日本のドルメンと埋葬墳）という論文には、綾塚古墳の「御所ヶ谷」という意味を表す「御所ヶ谷」という言い方がある。また「御所ヶ谷神籠石」という言い方がある。この地で行った聞き取り調査の詳細な記述をみると、石室をもつ古墳を「ドルメン」と表現していますが、この論文の最後には「この地域（みやこ町勝山黒田周辺）がドルメン時代に重要な場所だったことは、そこに100以上も散在しているドルメンの数の多さからだけでも明らかである。」という記載は特に注目さ

「日本考古学の父」

ガウランドは現在、国内で広く行われている発掘調査の方法を考案したことから「日本考古学の父」という別名も併せ持ちます。日本人よりも古墳の重要性を認識した彼が残した貴重な資料は、現在、大英博物館を訪れる年間60万人を超える世界各地の人々に日本古墳文化の重要性を伝える続けていますが、みやこ町の古墳の資料もその重要な役割の一端を担っていることを改めて誇りに思いたいものです。

（井上信隆）



勝山地区にみられる群集墳の一例